

平成24年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査費	調査地点	ヒトデ数	被度 (%)	状況
協議会	1,660,000	宮古崎	0	40%	白化や食痕はみられず、健全なサンゴ群集が保たれている。
		宮古崎東	0	20%	周辺の礁縁では回復が遅れている。白化や食痕は見られなかった。
		デン浜	0	30%	以前の食害により礁斜面下部は壊滅状態。新規加入は少ない。
		知名瀬大浜	0	20%	以前の食害により礁斜面のサンゴは壊滅状態であったが、比較的新規加入の群集がみられる。
		大浜	0	5%未満	本調査時には食痕はみられなかった。
		摺子崎	0	10%	以前の食害により礁斜面は全滅状態。礁縁はハヤサイサンゴ属が優占しているが、ミドリイシ属の小型群集も多い。
		赤崎	0	5%未満	以前の白化現象により壊滅状態。南側の貝浜では回復傾向だが、赤崎周辺では回復が遅れている。
		名瀬湾立神	0	5%未満	以前の白化現象により卓状ミドリイシ群落は壊滅。新規加入のミドリイシ属がやや増加傾向。小型群集もまばらにみられる。
		山羊島	0	20%	ハマサンゴ属が優占。大型のハマサンゴ群集が点在し、枝状のエビエタハマサンゴ群落広がる。
		キョンナ	0	5%未満	白化現象で壊滅後、被度10%まで回復してきたが、2007年にオニヒデにより再び壊滅。新規加入のミドリイシ属は少ない。
		有良	0	5%未満	以前に大量発生したオニヒデによりほぼ全滅。新規加入のサンゴは少ない。
		芦花部	0	5%未満	以前に大量発生したオニヒデによりほぼ全滅。新規加入のサンゴは少ない。
		摺古崎礁池	0	5%未満	塊状のハカササンゴの小群集や塊状ハマサンゴが点在する。ミドリイシ属の新規加入はほとんどみられない。
		摺古崎礁原	0	10%	卓状ミドリイシ属が優占。以前、オニヒデのリーフ内への進入を阻止し、サンゴを保全できた海域。食痕はみられない。
		大浜礁池	0	5%未満	ミドリイシ属の小型群集がみられるようになってきているが新規加入のサンゴは少ない。
		大浜礁原	0	10%	オニヒデによる食害があったが駆除等により全滅は免れ、ミドリイシ属の小型群集が生存している。
		崎原東	0	70%	卓状のクシダミドリイシが優占。名瀬海域では生サンゴ被度が一番高い地点。白化や食痕もほとんどない。
		崎原南	0	30%	樹枝状ミドリイシ群落の回復が進んでいる。種の多様性も高い。
		仲干瀬崎(小湊南)	0	70%	順調に回復してきている。台風による破損もみられなかった。
		赤木名	0	30%	サンゴ群集は、おおむね健全な状態。
		前肥田	0	70%	サンゴは健全な状態。白化や食痕もみられない。ミドリイシ属はほとんどみられない。
		赤木名立神	0	5%	以前の白化現象によってサンゴは壊滅したが、回復がみられる。今後、サンゴの成長が見込まれる。
		蒲生崎入口	0	10%	以前の白化現象によりサンゴは壊滅。種の多様性は高いが、被度は10%程度。
		蒲生崎	0	10%	蒲生崎周辺でサンゴの新規加入が多い海域。今後サンゴの成長により被度の増加が見込まれる。
		佐仁	0	40%	回復が特に順調な海域。
		用海岸	0	50%	回復が特に良好。種の多様性も高い。
		あやまる岬	0	30%	礁斜面がほぼ垂直に落ち込む地形。礁縁にのみ卓状ミドリイシがみられる。今後も順調な回復が見込まれる。
		節田	0	60%	礁縁から礁斜面にかけて、クシダミドリイシを中心に卓状ミドリイシ群落が広がる。新規加入のミドリイシ類も多い。
		明神崎	0	30%	波当たりが強い礁縁にハヤサイサンゴ類の群集が広がる。サンゴ群集は健全な状態。
		用安	0	10%	新規加入のミドリイシ属は少ないが、今後卓状ミドリイシ属の成長に伴い、被度の増加が期待できる。
		神の子	0	40%	白化や食痕はみられない。ミドリイシ属の新規加入は少ない。
		高浜東	0	70%	サンゴ群集は健全な状態で、順調に回復している。
高浜	0	50%	サンゴ群集は健全な状態で、順調に回復している。		
鳩ノ崎	0	5%未満	今回の調査時には白化群集はみられなかった。		
トビラ	0	10%	堆積していた泥土は減少し、透視度も高くなっていた。		
スタルトビラ	0	10%	一部の群集(数%程度)はサンゴ食巻貝の食害を受けていた。被度は昨年と同程度。		
和瀬	0	40%	台風により被度は減少したが、堆積していた泥土は洗い流された。		

平成24年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査費	調査地点	ヒトデ数	被度 (%)	状況	
協議会	1,660,000 (再掲)	大和村	今里沖	0	5%未満	壊滅状態で骨格が残る。新規加入のミドリイシ属のサンゴが少ない状態が続いている。
			今里小浜	0	5%未満	被度は5%未満の状態であるが、サンゴの小型群体が増加傾向である。
			名音沖	0	10%	被度は昨年から増加。
			名音隧道	0	5%未満	サンゴ群体の成長に伴い、今後、被度の増加が期待できる。
			ヒエン浜(中央)	0	10%	新規加入のミドリイシ属は少ない。被度は昨年同様。
			ヒエン浜(戸円側)	0	10%	局地的に大型群体がみられる。被度は昨年同様。
			大山崎西浜	0	10%	周辺海域より多様性が高い。食痕もみられない。
			トルス	0	5%未満	新規加入は少ない。
			マッコ	0	5%未満	サンゴは壊滅状態で、指状ミドリイシ属の小型群体がまばらにみられる。
			石川	0	5%未満	サンゴは壊滅状態で、ハナヤサイサンゴや指状ミドリイシ属の小型群体がまばらにみられる程度。
			親川	0	5%未満	小型群体がまばらにみられる程度。リュウキュウサンゴ群落がみられる。
			宮古崎	0	5%	被度は増加傾向。
			志戸勘トンネルコモリ	0	20%	礁原上にある直径50m、水深10mのすりばち状の窪み(コモリ)。小群落が点在している。
			志戸勘トンネル礁池	0	30%	小型群体が多くみられ、数メートルに広がる群落も点在している。礁池内では順調にサンゴが回復している。
			新川南	0	10%	サンゴは健全な状態にあり、被度も増加傾向。
		国直北	0	10%	サンゴの成長に伴い、今後被度の増加が期待できる。	
		国直	0	10%	サンゴの成長に伴い、今後被度の増加が期待できる。	
		宇検村	曾津高崎東	0	70%	他地点より回復が早く、種の多様性も高い。
			外浜	0	40%	大型群体もみられるが、高被度の広がりには少ない。
			屋鈍崎	0	5%	小型群体が散見できる程度に回復してきている。
			屋鈍	0	10%	被度は増加傾向。
			タエン崎	0	10%	サンゴの成長に伴い、被度は増加傾向。
			タエン	0	30%	内湾性の環境で生息するサンゴの多様性も高い。
			枝手久島北	0	70%	食痕や白化もみられず、健全なサンゴ群集が広がっている。
			倉木崎	0	40%	ミドリイシ属はやや少ない。白化や食痕もみられない。
			船越海岸	0	70%	食痕や白化もみられず、健全なサンゴ群集が広がっている。
		龍郷町	今井崎	0	30%	ソコウガが目立つようになった。稚サンゴの成長も確認。
			ハナゴイ	2	30%	ところどころでミドリイシが成長。
			円	1	5%	去年から目立ち始めたミドリイシの稚サンゴは順調に成長。
			嘉渡	0	5%	まばらではあるがミドリイシがみられるようになった。
倉崎	0		10%	大きな変化はないが卓上ミドリイシなど成長はみられる。		
白浦	1		20%	ミドリイシが順調に成長。		
ウマズバマ	3		30%	食害後は変化なし。		
戸口落水	0		30%	部分的に成長しているようだが、大きな変化はみられず。		
赤尾木	0		30%	砂地にハマサンゴの根が点在。大きな変化はなし。		
久場	0		20%	以前ユビエダハマサンゴが群生した場所は変わらず死滅状態。		
戸口アーチ	3		30%	前年と変化なし。		
アウン	0		30%	前年と変化なし。		

平成24年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査費	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
瀬戸内町	260,000	実久	0	25- 49	テーブルサンゴが生息。
		デリキョンマ崎	0	25- 49	波でサンゴが崩れている。
		黒崎	0	0- 24	ほとんどのサンゴ礁が崩れている。
		安脚場	0	25- 49	白化現象がみられる。
喜界町	396,000	花良治	0	0- 24	台風15号の影響により、ロープ等が絡まっていた。(除去済み)
		池治	0	0- 24	台風による被害はなく、オニヒトデの食痕も見られなかった。
		塩道	0	0- 24	台風15号の影響により、テーブル状のミドリサンゴがほぼ消滅(特に水深3m~7mのところ)。水深15mの砂地もV字型に落ち込み、岩盤が露出しており、所々、うねりにより壊されたサンゴが落ちている。
徳之島町	145,000	畦	4	50- 74	
		母間	4	50- 74	
天城町	340,000	松原漁港沖	0	0- 24	新しい被害はみられない。少しずつ成長が確認できる。
		浅間沖	0	0- 24	新しいサンゴ礁が多くみられる。
伊仙町	175,000	喜念崎	2	50- 74	オニヒトデは小型。
		佐弁	1	50- 74	オニヒトデは小型で目立った変化はみられなかった。
		伊仙	5	50- 74	サンゴの発育は良好。オニヒトデの数が気になる。
		面縄	2	50- 74	白化現象はみられず、サンゴの状態は良好。
和泊町	380,000	西原	0	50- 74	
		出花	0	50- 74	
		ワンジョ	0	50- 74	
		イダシチ	0	50- 74	
知名町	190,000	屋子母	0	0- 24	昨年までモニタリングしていたサンゴが死亡消滅していた。台風の影響と思われる。
		屋者	0	0- 24	レイシガイの食害が確認された。
		沖泊	0	0- 24	ミドリイシサンゴが所どころでレイシガイダマシに食害を受けていた。
与論町	450,000	供利沖	0	75- 100	食害と思われるサンゴもあった。
		皆田沖	0	25- 49	
		B&G艇庫前(北側)	0	0- 24	オニヒトデは発見できなかったが、食害と思われる部分がみられた。
		B&G艇庫前(南側)	0	0- 24	食害はなし。小ぶりのサンゴは見られる。
		B&G艇庫前(南西側)	0	50- 74	食害がみられるも、オニヒトデは発見できず。
		赤崎沖	0	25- 49	調査ポイントの中では健全な部類。被覆度は10%程度。
合計	5,882,000				